

# 思い出の湧き水

～ 八重瀬町 ～

ぶん・え チームAKUAH



# 思い出の湧き水

～ 八重瀬町 ～

ぶん・え チームAKUAH





今日は 年に一度のお祭りの日  
ゆうたくんは 八重瀬町の安里にある  
おばあちゃんの家へ あそびに行きました

ピンポン!

「おばあちゃん あそびに来たよ!」

「あいー! ゆうたくん よく来たね  
まえ来たときよりも 大きくなってさ  
はい あがりなさい」





おばあちゃんと おしゃべりをしていると  
ゆうたくんは 見たことがない 古いアルバムをみつけました



「この写真の人って おばあちゃん？」  
「そうだよ おばあちゃんが若いときの写真だよ もう50年もまえだね…  
ゆうたくんが 毎日使っている水は ジャグチをひねれば出てくるけど  
むかしは そうじゃなかったわけさ  
生活でつかう水は 湧き水をつかっていたんだよ  
だから 水が出るところには よく人があつまって にぎやかだったさ」





おばあちゃんが 小さいころは お母さんについて行って  
アハガーで 洗たくのお手伝いをしたんだよ  
お手伝いが終わったら そのそばでスイスイと泳いであそんだね  
とっても冷たくて 気持ちよかったさ

むかしは お米のかわりに イモをよく食べていたわけさ  
アハガーで イモをゴシゴシ洗って ごはんのじゅんびをしたんだよ  
そのとなりで 近所のおじさんが 馬や牛に水をあびせていたよ





星がキラキラ光る夜

アハガーは おふろ場に へんしんしたんだよ

ここには かべがあって おくが女の人 まえが男の人

じゃぶ じゃぶ じゃぶ

水をあびたあと

白いドロのクチャで 体を洗っていたんだよ

今のせっけんがちがって クチャで洗うと

髪の毛がキシキシになったんだよね

それも今では いい思い出だね

あかりに照らされながら おふろに入るのが

おばあちゃんは好きだったなあ



これは ザカンガーだよ  
おばあちゃんが 住んでいる地区では  
毎年 若者たちが 運動会を開いていたんだよ

「安里がんばれー！」

「坂名城がんばれー！」

安里は 緑のゼッケン8番 坂名城は 赤の5番  
具志頭は 黒の1番 だったかなあ

おうえんする人は ザカンガーでおふろをわかして  
選手たちが帰ってくるのを 待っていたね

村の人たちみんなでもり上がって とても楽しかったなあ。





「あ！ オオウナギがいる！」

「しー！ オオウナギに気づかれちゃう

にがさないように…」

「よーし… いまだ！」「いまだ！！」

「あー残念！ にがしちゃった…」

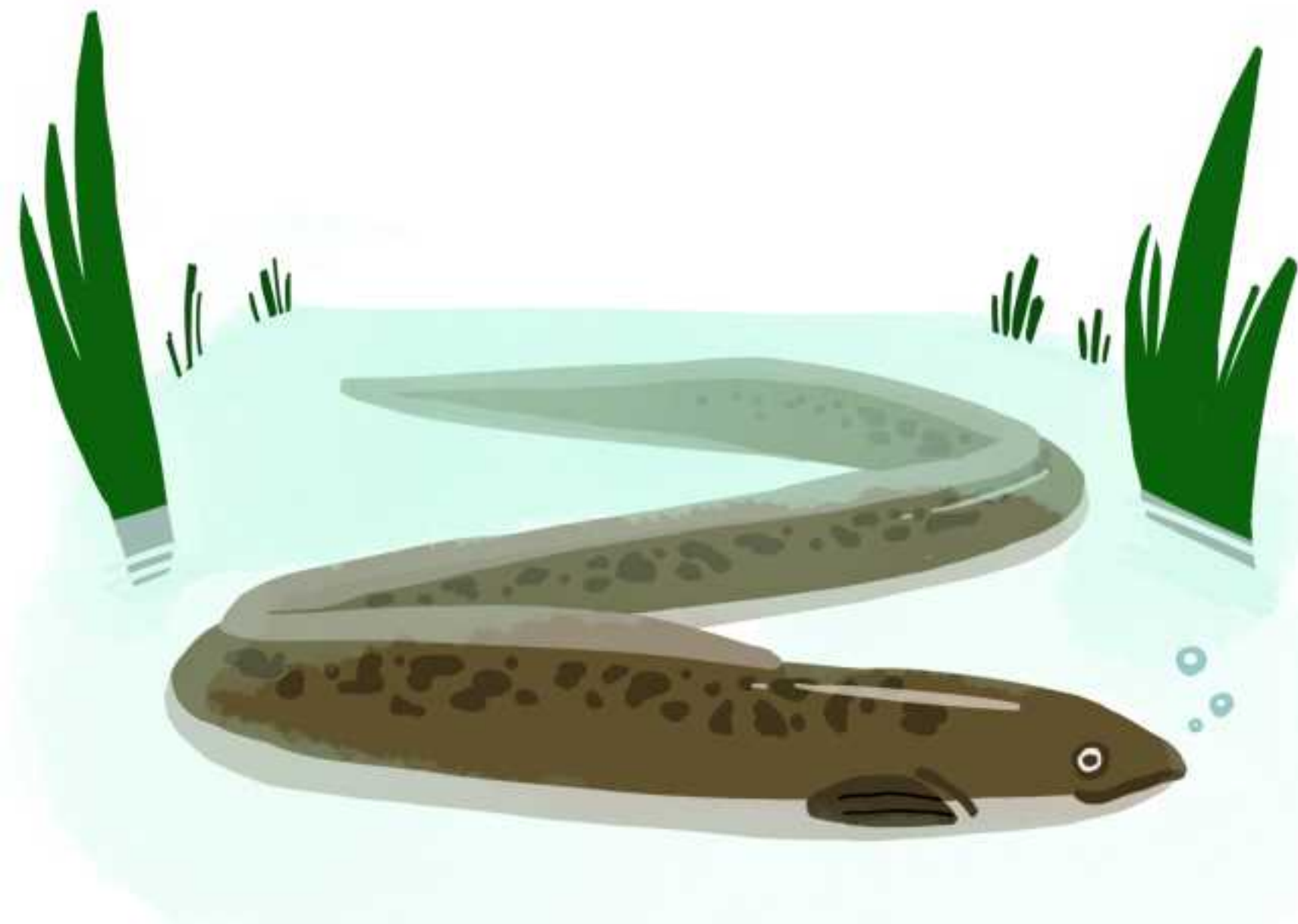
ザカンガーには 生きものがたくさん住んでいて

魚やオオウナギが とれていたんだよ

これは ウフデークだね

毎年きゅうれきの7月17日には

ちいきの女の人們たちが たいこを鳴らしながら おどるわけさーね



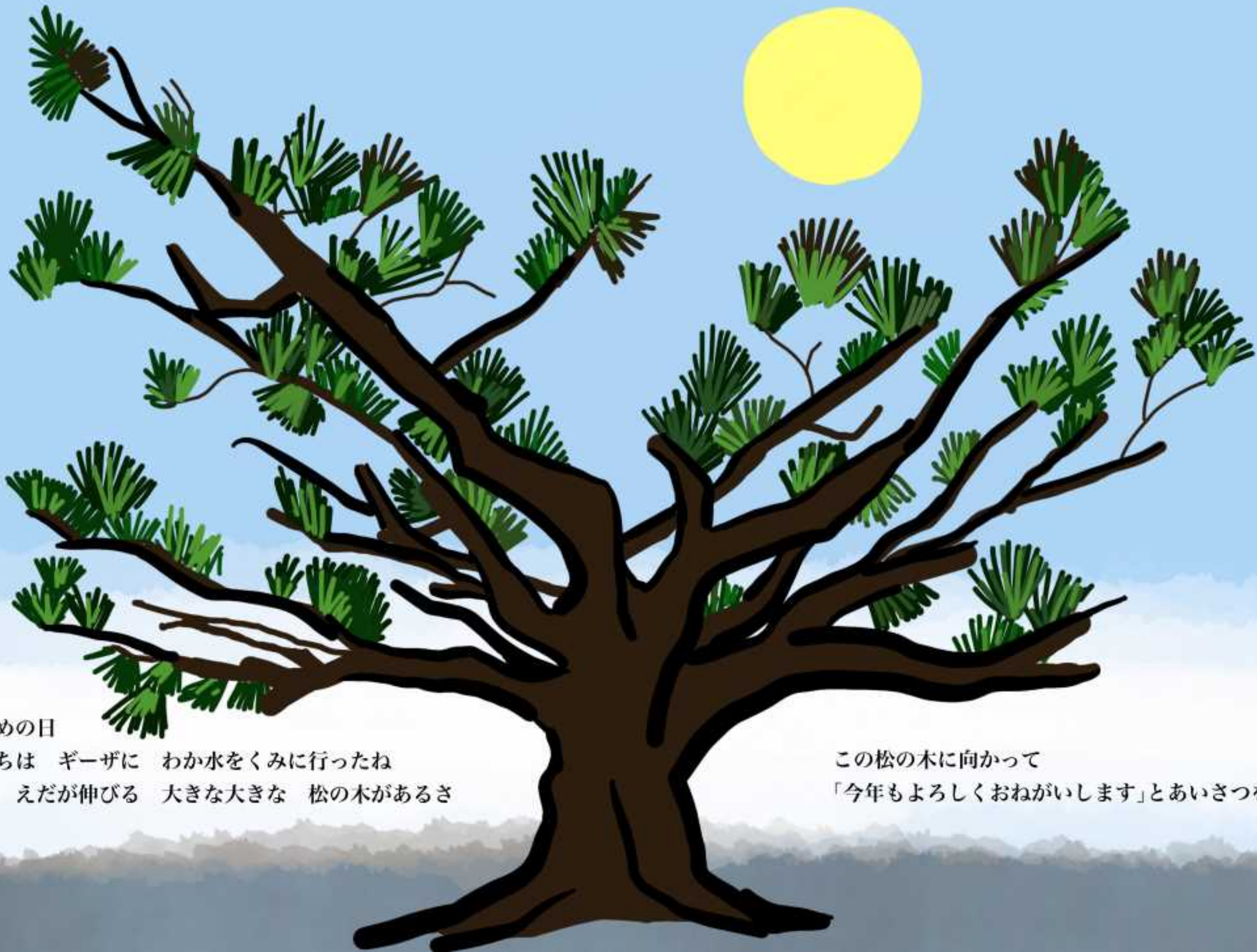


ぎーぎーぎー ぎーぎーぎー

たくさん水が流れる音 青くて広い海 心地よい風  
ギーザバンタは おぼあちゃんの 大好きな景色だよ  
ギーザバンタには  
悪いものから守ってくれる 「すいじん様の伝説」があるさあ  
村の人たちは ここで すいじん様におねがいごとをしたんだよ







新しい年のはじめの日

おじいちゃんたちは ギーザに わか水をくみに行ったね  
村に 遠くまで えだが伸びる 大きな大きな 松の木があるさ

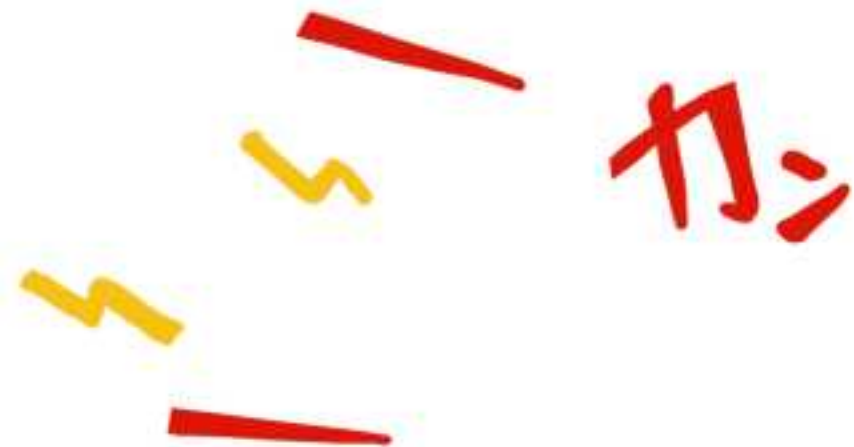
この松の木に向かって

「今年もよろしくおねがいします」とあいさつをしたんだよ



ゆうたくんは おばあちゃんの話聞いて  
たくさんの思い出と水が 深くつながっていると感しました

カンカンカンカンカンカン……



お祭りがはじまる音が 聞こえてきました  
「お祭りがはじまる！ おばあちゃん行こう！」

カン







歡樂

招豐年

カーン！ カーン！

カーン！ カーン！

「えいっ！」

「えいっ！」



お祭りがおわると  
ゆうたくんとおばあちゃんは お家に帰ってきました  
「このお祭りは ずっとつづいているんだよ  
むかしから変わっていないから すごくなつかしいね」



「そっか… ずっと守られているものがあるんだね」  
「今日はゆうたくんと 村をまわられて楽しかったよ  
本当にありがとうね」  
おばあちゃんは ほほえみながらいいました





「おばあちゃんの大好きな  
アハガーも ザカンガーも ギーザパンタも  
大切に守っていきたい」

ゆうたくんは 夜空をながめながら思いました



絵本📖の中で  
出てくる湧き水💧  
in YAESE.

世持井 ユムチガー



座嘉武井 ザカンガー



“やえせ桜まつり”



&



慶座絶壁  
ギザバツタ



屋富祖井  
ヤフガー



南の駅  
やえせ

ハーレー

雄通川 ゆうひがわ

青年エイサー祭

長堂川

饒波川

報得川



この本を読んでもくれたみなさんへ

『思い出の湧き水ー八重瀬町ー』を最後まで読んでくれてありがとうございました。

みなさんにとって水はどのようなそんざいですか？

絵本の中で水はどのようなそんざいとしてえがかれていましたか？

朝起きて、学校に行って、お家に帰ってきて寝るまで、一日を思い出すだけでも

みなさんのくらしは水に支えられていることが分かるはずです。

絵本の中では、水はくらしに欠かせないものであると同時に、

湧き水は、地域の「いこいの場」でもありましたね。

湧き水には、昔からたくさんの思い出がつまっています。

この湧き水を、みなさんも大切に守って行ってくださいね。

## ～私たちの活動～

私たちは、琉球大学法文学部総合社会システム学科政治・国際関係専攻2年次の4名、そしてサポート教員の合計5名で構成されたチームです。

メンバー全員の頭文字を取って、「チームAKUAH」として活動してきました。

この活動は、「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」という正課外プロジェクトで、自ら「地域」に入り、地域を元気にしていこうという趣旨で行ってきました。

八重瀬町には、豊富な地下水、湧き水が存在します。

しかし、近年、地下水が汚れてきていると言われていました。

私たちは貴重な資源や、それに関連する文化や歴史を継承していくために出来ることは何だろうかと考えました。

そこで、2017年に、沖縄の大学生を対象に行われた「大学生の水に関する意識調査」を参照したところ、小学校から高校までの間に地下水について学ぶ機会が少ないことが分かりました。

それを踏まえて、私たちチームAKUAHは、湧き水の昔話を集めた絵本を作成し、湧き水を知るきっかけを作りたいと考えました。

ヒアリング調査を進めていく中で、湧き水が生活に密着していた光景や、生活を支えていた歴史があったことを実感しました。

同時に、人と人との繋がりが形成され、多くの住民の思い出が詰まった、魅力溢れる場所だと強く感じました。私たちが感じたこの想いを、この絵本を通じて伝えていけたら嬉しいです。

そして、私たちが作成した絵本が、少しでも地域の活性化、そして地下水保全に繋がれば幸いです。

最後に、地域の方々からのヒアリング調査を基に作成したこの絵本は、地域の方々の協力に支えられて出来ました。

桃原清徳先生、そのご家族の方々、八重瀬町議会金城秀雄議員、八重瀬町ガイドの会の方々、

八重瀬町役場観光振興課の方々、そして地域の方々に心より感謝申し上げます。

そして、活動をサポートして頂いた、琉球大学水の環プロジェクトの先生方、ちゅらプロに関わる先生方、サポート教員の久保慶明准教授、誠にありがとうございました。

2019年1月

チームAKUAH







## チームAKUAH

琉球大学法文学部総合社会システム学科政治・国際関係専攻

絵 宮崎 秋穂

文 古堅 はるか

伊藤 恩希

仲間 綺

サポート教員 久保 慶明









